

政策綱領：川西市を、たてなおすために。

私たちの川西市が、この8年間で失ってきたものは、2つあります。

1つは、市政の**市民への敬意と共感**。もう1つは、市民の**市政への信頼と安心**です。

だから、このままでは、これから先の川西市は、成り立たなくなっていくます。

私は今、強い危機感をいただいています。

たとえば、幼稚園の廃園にしろ、中学校部活動の廃止にしろ、大和バスの減便や高齢者施設の廃止にしろ、そのどれをとっても、政策決定の過程が不明です。

なぜ廃止しなければならないのか。何のためにそれが必要なのか。廃止した後どうなるのか。関係する住民をはじめ市民への説明がなされないまま、「市の方針ですから」と、一方的な結論が宣告され、市民に突き付けられます。行政の説明責任が果たされていません。

市民の知る権利が侵害されています。市民が暮らしを守るために出した請願も、たとえ議会が採択した請願でも、尊重されません。**市民自治の民主主義**が今、危機に瀕しています。

そこには市民への敬意も共感もありません。だから信頼も安心も生まれません。

このような現状に対して今、次の**5つの市政改革**が必要だと、私は考えます。

第1に「**政策決定過程の可視化**」です。なぜその政策を行うのか、市民から見えるものになさなければなりません。その基本的枠組みとなる「**市民自治基本条例**」を創ります。

第2に、その基本条例を基盤に、8年間で失われてきた「**公共基盤の再編整備**」に着手します。8年間のビルドなきスクラップに対する「**市民本位の再ビルド計画**」です。

第3に、従来見られた「**見せかけの財政黒字**」ではなく、歳入を可視化し、歳出の市民的共有を可能な限りはかり、「**市民に分かる・見える財政**」を実現していきます。

第4に、これらの政策を市民とのパートナーシップで具体的に推進していくことができるよう、「**職員が意欲を持って働くことのできる市役所の再生**」にとりくみます。

そして第5に、市政について市民が直接苦情等を申立てて必要ならば調査等も実施できる制度として、広く市民に開かれた「**市政検証の公的第三者機関**」を創設します。

この5つの政策を通して、どの地域においても、老いも若きも市民が安心して暮らしつづけることのできる、**川西市の公共サービスの再建と充実**を実現します。

これら5つの政策を相互に響き合うものとして、具体的に積み上げていく中から、**子どもも高齢者もみんなが安心できるまちづくり**を進めます。そして、**市民の市民による市民のための川西市政を、市民自治の民主主義を、**実現していきます。

私は3期12年間、川西市議として、川西市政をつぶさに見てきました。さまざまな市民のみなさまの声を聴き、その願いを受けとめて、市議として活動してきました。

今後さらに、市民のみなさまの声と願いに応えていくには、とりわけ今まさに直面している川西市の危機にあっては、**市民自治の民主主義**を求めてきた私の経験と知識を糧として、自治行政の長としての役割を、担わねばならない——と決意した次第です。

2026(令和8)年8月

斯波 康晴

しば やすはる



しばやすはる物語

人物紹介: 斯波 康晴 (しば やすはる)

1967 年～ 京都市生まれ-川西市育ち (現在 59 歳)

▼川西市は清和台南小学校-清和台中学校で学び育ちました▼ボーイスカウトで野外活動に目覚め、キャンプと読書が大好きな少年でした▼中学校を卒業して地元の県立猪名川高校に入学。高校では生徒会で仲間たちと共に活動。春・夏休みは周遊券で2～3 週間ぶらり独り旅にでかける。そんな少年でした。

1985 年～ 県立猪名川高校卒業-神戸大学法学部入学～世界に学ぶ

▼神戸大学では法学を学ぶ中で教育学に目覚める。1988 年に教育学部に再入学▼趣味の独り旅は海外へ。格安航空券がなかった時代、アルバイトしてお金貯めて、最初は神戸港からの船旅。3等船室で雑魚寝して上海へ。ときにはシルクロードをたどり欧州へ。またときにはヒマラヤを越えてチベットやインドへ▼神戸大学探検部に所属するうちに日本学生探検協会の初代会長に就任。タクラマカン砂漠日中合同学生探検隊を組織し日本側代表として外務省、中国政府、新疆ウイグル自治区人民政府と折衝。人跡未踏の中国タクラマカン砂漠を学術探検▼バックパッカーの旅は40か国・地域に。世界の人と暮らしと文化と自然を学ぶ。

1993 年～ 神戸大学教育学部卒業-住友ゴム工業(株)入社

▼神戸大学卒業と同時に住友ゴムに就職。主に海外マーケティング業務に携わる。当時、経済開放が始まった中国などに赴任、精密ゴム産業品の新規市場開拓に従事。2005 年退職。

2005 年～ 海外で起業-中・台・韓で産業振興～そして地域活動

▼退職後、中国・台湾・韓国の仲間と現地で印刷資材サプライ事業を起業、マーケティングやコンサルを手がける▼中国と韓国の現地法人から役員招聘を受けて就任。一時は年半分が海外生活の「企業戦士」に▼その後、海外ビジネスの一線から退き、わが子の成長とともに、けやき坂小学校 PTA 会長を頼まれ引き受ける。けやき坂お父さん会を創設▼これがきっかけで地域には様々な課題があることを知り、地域まちづくり活動に目覚める▼コミュニティ活動や市・県の審議会委員を務める中、「地方自治は民主主義の学校だ」との理念に目覚める。

2014 年～ 川西市議会議員として地域活動-「地方自治改革」研究

▼特定の政党には属さず、あくまで市民の代表として市民による市民のための市政の実現を訴えて市議に初当選▼しがらみを持たず、市民を代弁する、市民派の市議の立ち位置から、市民主役・市民協働のまちづくりをめざし、市議会会派「明日のかわにし」を結成し議員活動▼2018 年市議に再選。2022 年の市議 3 選目では、越田市政の 4 年間に対して「対話なき議会軽視の市政」「不透明な政策決定過程」等々の問題を指摘、市政改革を訴える▼3 期目では、無所属市民派のかも文子議員と市議会会派「市民ファーストかわにし」結成。市民派議員として市民の声と願いを代弁、越田市政に対し是々非々を貫く▼この間、議員活動と共に「地方自治改革」をテーマに研究活動にとりくむ。2018 年には、日本自治創造学会「第 10 回改革発表会 ベスト1賞」、「第 13 回マニフェスト大賞」で「最優秀政策提言賞」及び「優秀プレゼン賞」を受賞。2023 年からは同志社大学で招聘講師として「地方自治論」を講義▼その他に現在: 日本自治創造学会会員、財政研究会地方議員連盟会員、日本税制改革協議会会員、別居・離婚後の親子関係を考える地方議連会員、(社)英国勅許公共財務会計協会日本支部会員(地方監査会計技術者)等々。